

医療法人社団 正心会
岡本石井病院
2025年への対応方針

平成30年8月策定

【 正心会 岡本石井病院の基本情報 】

医療機関名：岡本石井病院

開設主体：医療法人社団 正心会

所在地：焼津市小川新町 5 丁目 2 番 3 号

許可病床数：197 床

病床の種類：

一般病床 43 床（包括ケア病床 12 床）、

療養病床 154 床（包括ケア病床 34 床、回復期病床 30 床、医療療養病床 90 床）

病床機能別：

急性期 43 床、回復期 30 床 慢性期 124 床

診療科目：内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、アレルギー科、神経内科、外科、
乳腺外科、肛門科、整形外科・リウマチ科、脳神経外科、皮膚科、産婦人科

職員数：（平成 30 年 8 月 1 日現在）

- ・ 医師 29 名（ 常勤医 9 名 非常勤医 20 名 ）
- ・ 看護職 91 名（ 常勤 65 名、非常勤 26 名 ）
- ・ 専門職 116 名（ 常勤 95 名、非常勤 21 名 ）
- ・ 事務職 29 名

【I 現状と課題】

1. 志太榛原構想区域の現状

・平成 27 年（2015 年）の志太榛原構想区域の人口は 46 万 4 千人で、2025 年には 43 万 3 千人、2030 年には 42 万 2 千人、2040 年には 38 万 4 千人に減少する。65 才以上の高齢者の人口比（高齢化率）はそれぞれ 28.4%、32.4%、33.6%、37.1%と高齢化率が上昇し、人口の減少と高齢化が進行することが予想されている。

・平成 29 年 4 月現在の使用許可病床数は、一般病床が 2392 床、療養病床が 1078 床となっている。

・区域内には、病院が 13 病院あり、その中一般床、療養病床を有する病院は 11 病院である。

2. 志太榛原 構想区域の課題

・人口減少と高齢化率の進行。平成 27 年（2015 年）の志太榛原構想区域の人口は 46 万 4 千人で、2025 年には 43 万 3 千人、2030 年には 42 万 2 千人、2040 年には 38 万 4 千人に減少する。65 才以上の高齢者の人口（高齢化率）はそれぞれ 28.4%から 32.4%、33.6%、37.1%、特に医療、介護の必要度が高くなる 75 才以上の後期高齢者の比率が、13.9%から 19.2%、21.0%、22.1%と増加し、多死社会が到来、医療、介護を圧迫することが懸念されている。

・機能別病床数の将来予測では、全体として大幅な増加はないが、超急性期病床の不足、急性期病床の過剰、回復期病床の不足、療養病床の過剰、在宅医療の増加が予想されている。

・医療、介護スタッフの不足。医師数は、住民 10 万人当たり、志太榛原構想区域では 154.8 人と、静岡県の 193.9 人、全国平均の 233.6 人と比較して少ない。看護師についても当構想区域は 824.0 人と静岡県の 976.6 人、全国平均の 1121.6 人と比較して少ない。介護スタッフも同様の状況が予想される。今後、少子高齢化が進行し、医療・介護の需要は増加するが、それを支える労働人口が減少し、しかも中央・地方の関係の中で医療・介護スタッフの確保は大きな課題である。

3. 岡本石井病院の現状

・医療法人社団 正心会岡本石井病院の沿革

1946 年	岡本内科小児科開設
1973 年	岡本内科（有床診療所）現在地に開院
1979 年	岡本石井病院（一般床 55 床）開院。
1995 年	医療法人社団 正心会設立（老人保健施設 ケアセンターゆうゆう設立）
1999 年	岡本石井病院 法人化
2002 年	医療法人社団 正心会 岡本石井病院 168 床（一般床 30 床、医療療養病床 30 床、介護療養病床 108 床）
2008 年	168 床（一般病床 30 床、医療療養病床 84 床、介護療養病床 54 床）

- 2012年 168床（一般病床30床、医療療養病床138床）
- 2015年6月 新棟増築193床（一般病床43床、医療療養病床154床）
- 2015年11月 増床197床、包括ケア病床転換（一般病床31床、包括ケア病床12床、医療療養病床154床）
- 2016年11月 197床、包括ケア病棟転換（一般病床31床、包括ケア病床12床、包括ケア病棟34床、医療療養病床120床）
- 2018年3月 197床、回復期リハビリテーション病棟30床転換（一般病床31床、包括ケア病床12床、包括ケア病棟34床、回復期病棟30床、医療療養病床90床）

・理念：

本院は、地域住民の方々の健康を守るべく、個々の患者様に適した慢性期医療から急性期、予防医療を提供し、一体化した医療と介護に基づいた全人的かつ総合的な診療を推進し、地域医療の発展に努めます。

・基本方針：

1. 患者様の意思を尊重する医療の実践
2. 「迅速」かつ「きめ細やかな」医療、介護の提供
3. 予防医療の実践
4. 優れた医療人の育成
5. 地域の環境・文化保全に対する取組

・岡本石井病院の概要

1) 当院の概要

当院は、外来5診と4病棟、手術室1室、健康管理センターからなり、居宅介護事業所、通所リハビリテーション、訪問看護ステーションを併設している。総病床数197床、内訳は、2A病棟（一般床31床、包括ケア病床12床）、2B病棟（包括ケア病床34床）、4A病棟（医療療養病床90床；入院基本料1、在宅復帰加算算定）4B病棟（回復期病床30床）である。

2) 法人関連施設

- ・糖尿病専門クリニック、・老人介護保険施設、・介護付き有料老人ホーム、
- ・特別養護老人ホーム2か所、・グループホーム、デイケアセンター

4) 診療科目：

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、アレルギー科、神経内科、外科、乳腺外科、肛門科、整形外科・リウマチ科、脳神経外科、皮膚科、産婦人科

5) 病院指定・許可：

労災指定医療機関、船員健康診断指定病院、結核予防指定医療機関、身体障害者福祉法指定医療機関、難病の患者に対する指定医療機関、生活保護指定医療機関、救急告示病院、在宅支援病院、焼津市救護病院

その他：

- ・日本病院機能評価認定病院（2018年）
- ・臨床研修協力病院（焼津市立総合病院、独立行政法人 静岡市立静岡病院）

6) 職員数：(平成30年8月1日現在)

	総人数（名）	常勤（名）	非常勤（名）
医師	29	9	20
看護職	91	65	26
介護士	51	40	11
理学療法士等	40		
栄養士	4		
歯科衛生士	2		
事務職員	29		

7) 平成29年度診療実績

外来診療		年間延受診患者数(人)	1日平均患者数(人)	
		41,479	139	
入院診療	病床数	年間延入院患者数(人)	平均在院日数(日)	病床稼働率(%)
全病棟	197	71,148	58	100.7
一般病床	31	10,981	16	103.9
包括ケア病床	12	4,358	74	101.7
包括ケア病棟	34	12,248	54	100.2
医療療養病床	120	43,566	195	101.1

その他、健診件数 2,641人、訪問診療 1,865件（内訳；自宅等 87件、同一建物居住者 1,778件）、看取り件数 43件（内訳；自宅 10件、関連施設 23件）

8) 過去5年間の診療実績

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来					
年間延受診患者数(人)	25,879	27,483	34,151	38,979	41,479
1日平均受診患者数(人)	86	92	114	130	139
入院(一般病床)					
年間延入院患者数(人)	10,248	9,466	13,564	15,232	15,334
平均在院日数(日)	19	17	14	17	16
病床稼働率(%)	99.2	91.8	94.9	101.9	103.1
入院(療養病床)					
年間延入院患者数(人)	49,858	49,127	52,876	55,821	55,814
平均在院日数((日)	166	157	142	126	195*
病床稼働率(%)	99.6	98.2	97.2	100.1	100.1

* 医療療養病床 120 床

9) 当院の特徴

- ①外来と急性期一般病床、包括ケア病床、回復期病床、療養型病床と機能的に異なる病床、手術室を持つ多機能病院である。
- ②外来診療を行っている
 - ・内科、整形外科、神経内科など高齢者の需要が多い診療科をカバーしている。
 - ・学会認定 循環器科、消化器科、呼吸器科、整形外科、脳神経外科の常勤専門医が診療する。
 - ・診療所のない総合的な診療と専門的診療の両者ができる。
 - ・急性期総合病院と異なり、予約なしに気軽に受診できる。
 - ・急性期総合病院と異なり、小回りが利き、包括的、専門的診療ができ利便性が高い。
 - ・診療所からの紹介患者の専門的診察、CT、MRIによる専門的検査が迅速に実施できる。
- ③院内薬局があり、院内で外来処方ができ、患者様の利便性が高い。
- ④高度医療機器による検査が出来る
 - ・総合病院と異なり、予約、待ち時間なく、高性能の80列CT、1.5テスラMRIなどの高度医療機器による画像検査などが実施できる。
- ⑤消化器専門医による上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査が出来る。
- ⑥入院治療が出来る

当院は、一般病床、包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床、療養病床と

多機能の病床を有するケアミックス病院であり、軽症の急性期患者から、リハビリが必要な患者、長期療養を要する患者まで多様な患者の入院治療に対応できる。

⑦手術室を増設し、小手術ができる。

⑧リハビリテーションを実施できる。

当院は、リハビリテーション技術科を有し、多数の PT、OT、ST スタッフを擁し、

- ・ 外来の通院リハビリ、・ 併設のデイケアでの通所リハビリ、・ 回復期病棟、
- ・ 包括ケア病棟を中心にすべての病棟で入院患者のリハビリを実施している。
- ・ 循環器専門医と認定 PT による心臓リハビリなど専門リハビリを実施している。

⑨健診センターにおいて、地域住民の健康を守り、疾病を予防する観点から検診事業を実施している。

(参考) 病棟 (床) の種類と機能

①一般病床 (10:1) ; 高齢者の肺炎、尿路感染症、喘息、脱水を中心とした軽症急性患者の短期入院治療を行う。

②包括ケア病床 ; 在宅復帰までに比較的長期間の医療とリハビリが必要な患者の入院治療を行う。

高齢者フレイル患者の誤嚥性肺炎、胸腰椎圧迫骨折や、一般病床や総合病院で急性期医療や手術を受け病状は安定したが、治療の継続や、廃用症候群を併発した患者が対象となる。

③回復期リハビリテーション病床 ; 脳卒中、大腿骨頸部骨折術後など、体系的、集中的リハビリテーションが必要な患者が入院する。

④療養病棟 ; 長期療養が必要なで、しかも医療必要度が高い患者の入院医療を行う。
一般病床や急性期総合病院で治療を受け病状が安定した、しかし、人工呼吸、酸素吸入、気管切開、心拍呼吸モニター、中心静脈栄養管理、麻薬による疼痛管理が必要な、脳卒中後遺症、慢性呼吸不全、慢性心不全、神経筋疾患、悪性腫瘍ターミナルなどの患者の入院医療を行う。

1 0) 当院の役割

開設以来一貫して地域住民に密着して発展してきた病院である。超高齢化社会を迎え 複数の慢性疾患を抱えフレイルにある高齢者や介護を必要とする高齢者が急増している。診療所とも急性期総合病院とも異なり、小回りの利く多機能病院であるという当院の利便性を生かし、高齢者医療に注力し、地域医療の役割を分担をし、多忙な診療所、急性期総合病院を支えるのが当院の大きな役割である。

具体的には、

- 1) 高齢者外来 : 高齢者を中心に、包括的外来診療、高齢者専門外来診療
- 2) 高齢者の入院医療 :

- ・軽症の高齢者の入院治療、・在宅復帰に日数を要するフレイルの患者の入院治療、
- ・高齢者のリハビリ入院、・長期療養が必要な医療必要度の高い患者の入院医療を提供するのが当院の役割である。

2. 当院の課題

1) 外来診療の充実

包括ケア病床の在宅復帰の要件が厳しくなり、外来からの直接入院患者の増加が求められるようになり、外来機能の充実を図る必要がある。

また、地域の診療所の信頼をいただき高度医療を必要としない高齢の比較的軽症の入院患者の紹介をいただく努力も必要である。

2) 回復期リハビリ病棟の充実

平成 30 年 3 月より 30 床の回復期リハビリ病棟を開設し、急性期総合病院より患者のご紹介をいただいている。しかし、知名度、実績が不十分であるので、スタッフの修練と、実績の積み重ね、広報活動が必要である。

3) 看護師、介護士、リハビリテーションスタッフの不足

当院は、医療環境の急速な変化に対応するため、一般病床の活用、療養病床の包括ケア病床・病棟、回復期病棟への転換を行い、手術室も 1 室造設するなど病院機能の拡張を行ったためスタッフの増員が必要である。看護師、介護士、リハビスタッフの確保が病院として重要な課題であり、スタッフのリクルートに努めている。

4) 病院のスペースの狭小化

当院では、病院機能の拡張に伴い、病院のスペースが大変手狭になっている。超高齢化社会を迎え予防医学が重要であり、健診業務に力を入れて行く予定であるが、健診センターが手狭であり、業務の拡張に障害となっている。

【Ⅱ. 今後の方針】

1. 地域において今後担うべき役割

超高齢化を迎えた地域においては、高齢者の量的増加のみならず、フレイル、多臓器慢性疾患患者の増加など疾病構造にも大きな変化が予想される。

当院の役割は、診療所とも急性期総合病院とも異なる小回りの利く多機能病院であるという特徴を生かし、高齢者患者を中心に、診療所、急性期総合病院、介護・保健施設と連携し、地域における切れ目のない医療・介護を提供できる体制、言い換えると地域包括ケアシステムの構築に貢献することである。

- ・具体的役割；

- 1) 高齢者を中心とした地域住民に対して、紹介状なしのフリーアクセスの総合的・包括的な外来診療と高齢者専門外来診療を提供する。
- 2) 診療所から紹介された患者の高機能 CT、MRI による画像検査や専門医による医療

を行う。

- 3) 介護施設より紹介された患者の診療を行う。
- 4) 手術室において小手術を行う。
- 5) 肺炎・脱水など高齢者の軽症急性疾患の患者の入院治療を行う。
- 6) 在宅復帰に時間を要する、複数の疾患を抱えフレイルにある高齢者の患者、廃用症候群を合併した患者の入院治療、リハビリを行う。
- 7) 急性期総合病院と連携し、脳卒中、大腿骨頸部骨折など集中的、体系的リハビリが必要な患者の回復期リハビリ入院治療をする。
- 8) 急性期総合病院と連携し、急性期医療を終え、尚、医療必要度が高い患者の長期入院治療を行う。
- 9) 高齢者のフレイルの予防や身体機能回復のための通所リハビリテーションを行う。
- 10) 予想される在宅医療の増加に対応するため訪問診療、訪問看護を拡充する。
- 11) 予防医学の重要性を認識し、健診事業を拡充する。

2. 機能ごとの病床の在り方

(1) 今後の方針

	現在 (平成 30 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期	0 床	→	0 床
急性期	43 床 (包括ケア病床 12 床)		
回復期	64 床 (包括ケア病棟 34 床、 回復期リハビリ病棟 30 床)		94 床 (包括ケア病棟 34 床、回 復期リハビリ病棟 60 床)
慢性期	90 床		60 床
(合計)	197 床		197 床

(2) 今後の持つべき病床機能

当院は、医療需要の変化に対応し、既に平成 27 年 11 月、一般病床 12 床を包括ケア病床に、平成 28 年 11 月に療養病棟 34 床を包括ケア病棟に転換、平成 30 年 3 月、療養病床 30 床を回復期リハビリ病床に転換した。

その結果、現時点では総病床数 197 床、内訳は、2A 病棟 (一般床 31 床、包括ケア病床 12 床)、2B 病棟 (包括ケア病棟 34 床)、4A 病棟 (医療療養病床 90 床；入院基本料 1、在宅復帰加算算定) 4B 病棟 (回復期病床 30 床) となった。

今後、当構想区域においては回復期病床数の不足と、在宅医療へのシフトにより療養病床数の過剰が予想されている。当院は、このような病床の需要の変化に対応するため、今後、更に療養病床の一部を回復期病床に転換する計画を立てている。

(3) 具体的な計画

1) 当院は、2025年において予想される療養病棟の過剰、回復期病棟の不足に対応して一般病床12床を包括ケア病床、療養病棟34床を包括ケア病棟へ転換し、平成30年3月、療養病棟30床を回復期リハビリテーション病棟へ転換した。

今後、療養病床と回復期病床の需給予測を考慮し、2025年の時点で更に療養病床30床を回復期病床に転換し、回復期病床を94床とする計画である。

2) その他

- ・健診センターの新築・移転。予防医療の重要性の観点から健診業務を充実するため病院に隣接する敷地に新たに健診センターを新築し、平成30年4月を目標に健診業務を移転する予定である。

3. 診療科の見直し

(1) 今後の方針

	現在 (本方針の策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設			
廃止			
変更・統合			

(2) 具体的な方針及び計画